

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和四年度九月 入賞句一覽 投句数 八百八十六句

奥の細道  
むすびの地



特選

長町 誠司 選

ゴーグルのゴムひきしめてクロールだ 大垣市 子安 明香(小三)

クロールは夏の季語「泳ぎ」の傍題となります。もちろん、平泳ぎや背泳ぎ、立泳ぎなども歳時記に掲載されています。子どもに習わせたい習い事の上位に必ず入るスイミングですが、殆どの学校で水泳検定があるのも理由の一つかもしれません。さて、この句のポイントは中七の「ひきしめて」にあります。ゴムだけでなく「気」も同時にひきしめているのです。作者は小学三年生。心よりエールを送りたいです。

祭の夜音と明かりが映る川 加茂郡川辺町 三品 明日香(中二)

単に「祭」と書けば夏の季語。他季では、農耕の開始にあたって五穀豊穡を前祝する「春祭」と、収穫に感謝する「秋祭」があります。「祭」という言葉は何れも賑やかさを連想させますが、この句では明かりだけでなく「音」も川に映っているというのです。これで川沿いで行われている祭だとわかり、射的など音を伴う屋台やその明かり、人出までも想像させてくれます。視覚と聴覚を働かせた佳句です。

ふうりんがいつものかぜをメロデイに 大垣市 かきち りほ(小二)

風により、また材質によって音色やリズムが異なる風鈴の音。そんな風鈴が登場したのは、扇風機もエアコンもない時代。音で涼を得るとは、なんと素敵な発想でしょう。作者は二年生。いつも吹いて来る自然の風を、風鈴がメロデイにしてくれることに気づきました。目の付け所が良かったと思います。因みに、涼を引き出すための先人の知恵には、夏の季語でもある「打水」もあります。

秀逸

ばしろうのはてんにむかつてたびをする 大垣市 根占 匠(小六)

赤の橋夏の暑さと同じ色 大垣市 小野川 愛菜(小六)

青葉道青葉の下でメモをとる 大垣市 河合 美和(小六)

やまわらうわたしもわらうおしゃべりだ 大垣市 渡邊 あん菜(小六)

ゆるる月深い青と共に夜の海 大垣市 中村 亜央依(中三)

なんとなく生きて終わる夏休み 加茂郡川辺町 長塚 蒼馬(中二)

青空が大声待ってる運動会 加茂郡川辺町 小田 憩(中二)

かき氷空も私も青色に 加茂郡川辺町 渡辺 かずは(中二)

蝉生る合唱祭への第一歩 加茂郡川辺町 松岡 真吾(中三)

ザリガニはいつも家からにげだすよ 東京都渋谷区 加藤 究(小三)

入選

小中学生の部

青葉風みんなのかみをゆらして

大垣市

和田 梨花(小六)

もやいぶね青葉のかげがもようかな

大垣市

川村 恭子(小六)

もやいぶね桜のかげで一休み

大垣市

戸川 実玖(小六)

夏の川コイとカメとがごあいさつ

大垣市

日比 颯真(小六)

大垣はみずまんじゅうが有名だ

大垣市

植村 理緒(小六)

ふゆぎんがおおがきじょうでいちやみる

大垣市

今津 結衣(小六)

川港青葉の風にゆらされる

大垣市

伊東 海翔(小六)

赤い橋青葉かなでる葉のうたよ

大垣市

宮脇 希実(小六)

ばしよの葉なにも負けずまつすぐに

大垣市

西脇 沙夏(小六)

夏至の日の洗濯物を揺らす風

大垣市

多賀 千夏(中三)

夏休みこぶんけしごむ大こうふん

養老郡養老町

杉野 彩風(中三)

道いっぱい選んで咲いてるひまわり畑

加茂郡川辺町

藤井 結乃(中二)

かき氷けずった先には福がある

加茂郡川辺町

田原 悠太(中二)

海と森夏の音だけこだまする

加茂郡川辺町

藤田 未唯(中二)

ひまわりが顔を上げると言っている

加茂郡川辺町

細江 華由(中二)

向日葵の隣で背伸び背比べ

加茂郡川辺町

小栗 大知(中三)

どんぐりがいっぱいおちるひろいたい

大垣市

あさの るうな(小三)

むしのこえよるになつたらがつしようだ

大垣市

高はし ゆう太郎(小二)

川遊び最後はだいたい石切りだ

加茂郡川辺町

土屋 亘(中三)

セミの声聞こえなくなり新学期

大垣市

西村 羽生(小四)

選者吟

水打ちてデイサービスの人を待つ

せいじ

